



胃がん検診について

胃がんの特徴

- ① 胃がんは特に日本人に多い「がん」で、1998年に肺がんに追い抜かれるまで「がん」の部位別死因のトップでした。胃がんによる死亡者数は、最新の2021年の部位別データを見ると、男性では3位、女性では5位、男女合計では3位となっています。罹患者数でも大腸がん、肺がんに次いで3番目に多い「がん」です。
- ② 食事や生活習慣の変化から、若年層の罹患は少なくなっていますが、人口の高齢化を反映し死亡者数や罹患者数は決して少なくありません。
- ③ **胃がんは早期に発見すれば根治が可能な「がん」**ですので、**検診の受診が大切です。**

胃がん検診の方法

1) 検査方法

- ① バリウム服用による胃部X線検査
- ② 胃内視鏡検査

2) 対象年齢

50歳以上

※当分の間、胃部X線検査については40歳代に対しても実施可

3) 検診間隔

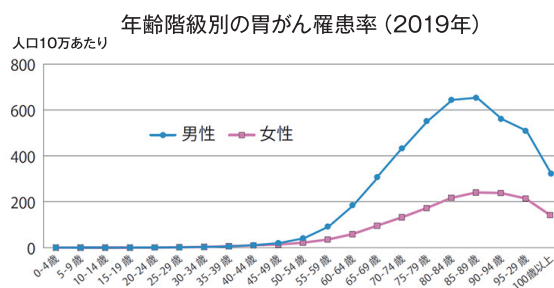
2年に1回

※当分の間、胃部X線検査については毎年1回実施可

4) 胃がん検診の精密検査

検診で「異常あり」という結果を受け取った場合は必ず精密検査を受けてください（実施医療機関は巻末参照）。

出典：国立がん研究センター がん情報サービス「最新がん統計」厚生労働省「全国がん登録 罹患者数・率 報告2019」



メッセージ

- 胃がんの発生原因には、ヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）感染と喫煙があり、その他に、食塩・高塩分食品の摂取が、胃がんが発生する危険性を高めることが報告されています。
- **早期胃がんを発見するには、胃がん検診が必須です。自覚症状がなくても50歳をすぎたら必ず胃部X線検査か胃内視鏡検査による検診を受けてください。**
- ただし、胃の痛み、不快感、食欲不振、食事がつかえるなどの自覚症状がある場合には、検診を受けるのではなく、すぐに医療機関を受診してください。

